

本時のねらい

動物の写真を使ったさまざまな活動を通して、いろいろな動物に親しみ、動物の種類を区別することができる。

本時における 1 人 1 台端末の活用方法とそのねらい

- ・タップしたりドラッグしたりする操作を通して、対象物を集中して見ることができる。
- ・それぞれの活動に同じ写真を用いて、学習につながりをもたせることで、ものを認識する力を高めていく。

活用した ICT 機器・デジタル教材・コンテンツ等

- ・タブレット PC (iPad)
- ・プレゼンテーションアプリ (Keynote)
- ・学習支援アプリ (ロイロノート)

本時の展開

学習の流れ	主な学習活動と内容	ICT 活用のポイント・工夫
導入 (5分)	○トランポリンをする。	
展開 (30分)	○ビジョントレーニングをする。 ・画面上の様々な場所に現れる動物の写真をタップする。 ○分類をする。 ・2種類の動物の写真を、種類ごとに分類する。 ○絵合わせをする。 ・2ピースに分かれた動物の写真をドラッグして、ぴったりと合わせる。 ○マッチングをする。 ・さまざまな動物の写真の中から、教員が言った動物の写真を、指定の場所にドラッグする。	・Keynote で作成した資料を使用する。タップ時に次のスライドに進むようにして、次々と動物の写真が現れるようにする。 ・ロイロノートのノート機能に、2種類の動物の写真を複数貼っておく。それらをドラッグして種類ごとに分類させる。分類する場所がわかりやすくなるように、それぞれの場所に色をつけておく。 ・ロイロノートのノート機能に、動物の写真を2ピースに分けて貼っておく。片方はピン止めし、動かないようにしておく。 ・ロイロノートのノート機能に、本時の活動で扱った5種類の動物の写真を貼っておく。「○○ちょうだい。」と声をかけ、その動物の写真を指定の場所にドラッグさせる。指定の場所は、わかりやすいように色をつけておく。
まとめ (10分)	○トイレトレーニングをする。	

1 人 1 台端末を活用した活動の様子



ビジョントレーニングで、画面に現れた動物をタップしている場面



パンダと犬の写真を、ドラッグしながら分類している場面



絵合わせで、写真をドラッグしながら位置を調整している場面

児童生徒の反応や変容

- ・知っている動物の写真が出ると、鳴き声や動きを真似して楽しみながら活動に取り組んでいた。
- ・各活動に同じ写真を使っていたので、動物の名前に対する反応がだんだんとよくなっていった。最後のマッチングでは、間違えるものもあったが、自信をもって活動に取り組んでいた。
- ・絵合わせは、パズルのように枠やぴったりとはまる感覚があるわけではないので、位置を調節するのが難しそうだった。しかしその分、集中して対象物を見ながら、取り組むことができた。

授業者の声～参考にしてほしいポイント～

児童の集中力によって、その時々でできることに差があるため、児童の状況に応じてその場で写真の配置を変えたり、写真の数を増やしたり減らしたりして、難易度を調整することができた。写真で容易に区別できるようになったら、イラストに変えたり、モノクロにしたりと、抽象的なものにしていくことで、ものを認識する力をより高めていくことができると考えた。